



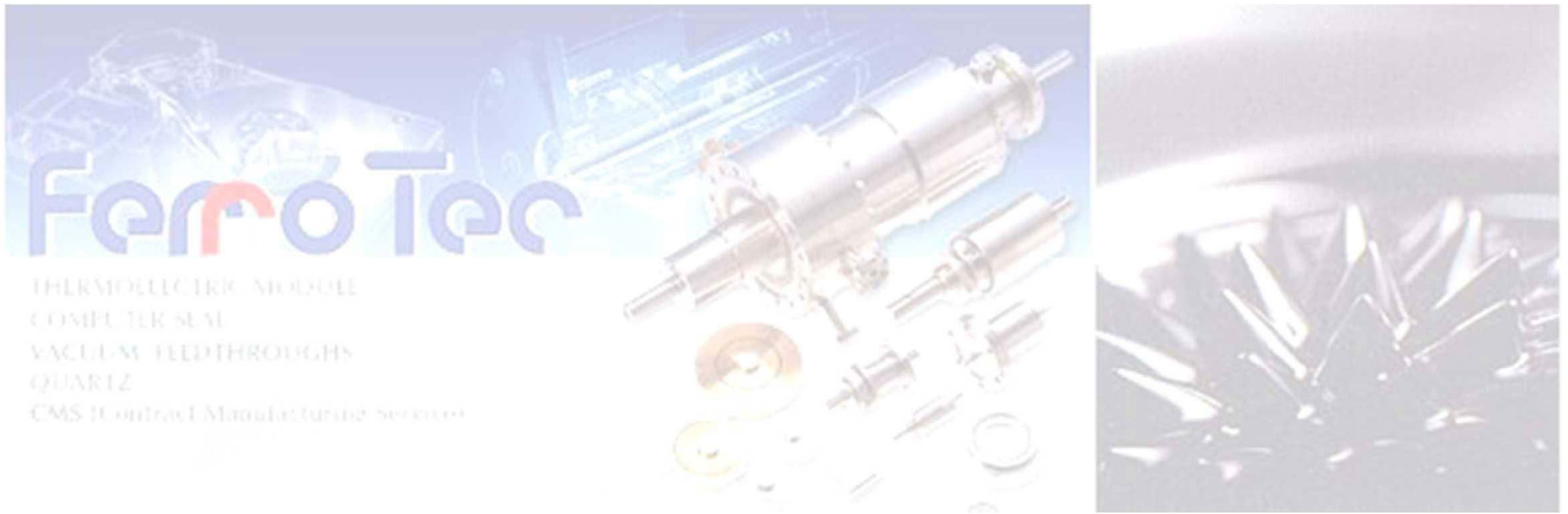
株式会社フェローテック
2014年3月期 決算説明会資料

2014年5月27日

(ジャスダック6890)

<http://www.ferrotec.co.jp/>

1. 当期連結決算においては、連結子会社・持分法適用会社は2013年1月～12月末の業績、フェローテック単体は、2013年4月～2014年3月末の業績を連結しております。
2. 本資料は、2014年3月期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。
3. 本資料は2014年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり予告なしに変更されることがあります。



2014年3月期業績報告

連結決算サマリー



百万円	2013年3月期		2014年3月期		前期比	
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	金額	増減率(%)
売上高	38,424	100.0	44,745	100.0	6,321	16.4
売上原価	31,448	81.8	33,925	75.8	2,477	7.8
売上総利益	6,976	18.2	10,820	24.2	3,844	55.1
販売管理費	10,584	27.5	10,021	22.4	△563	△5.3
営業利益	△3,608	-	798	1.8	4,406	-
営業外収益	1,155	3.0	1,924	4.3	769	66.6
営業外費用	1,012	2.6	1,460	3.3	448	44.3
経常利益	△3,465	-	1,262	2.8	4,727	-
特別利益	1,637	4.3	1,378	3.1	△259	△15.8
特別損失	4,330	11.3	573	1.3	△3,757	△86.8
当期純利益	△6,532	-	1,391	3.1	7,923	-
設備投資額	3,706	-	3,825	-	119	3.2
減価償却費	3,321	-	3,941	-	620	18.7

注 為替レート2013/3期→2014/3期：米ドル 80.12円→97.99円 人民元 12.73円→15.97円(期中平均レート)

連結決算サマリー



百万円	2014年3月期	
	金額	売上比(%)
売上高	44,745	100.0
売上原価	33,925	75.8
売上総利益	10,820	24.2
販売管理費	10,021	22.4
営業利益	798	1.8
営業外収益	1,924	4.3
営業外費用	1,460	3.3
経常利益	1,262	2.8
特別利益	1,378	3.1
特別損失	573	1.3
税前利益	2,067	4.6
法人税等	669	1.5
当期純利益	1,391	3.1

売上増、低価法評価損の減少等により、原価率改善

2013/3期と比較し、為替レートが大きく(US\$80.12→97.99平均レート)円安のため前期比の減少幅は小幅だが、前期末レートで換算の場合大幅な削減達成(事業構造改革プラン)

営業外収益：為替差益1,475百万円
営業外費用：事業構造改革費用443百万円

特別利益：投資有価証券売却益1,360百万円
特別損失：減損損失406百万円

セグメント別売上高および営業利益



売上高 (単位:百万円)	2013年3月期		2014年3月期		前期比	
	金額	売上比(%)	金額	売上比(%)	増減額	増減率(%)
装置関連	18,867	49.1	21,628	48.3	2,761	14.6
電子デバイス	4,563	11.9	6,609	14.8	2,046	44.8
太陽電池	12,345	32.1	13,203	29.5	858	7.0
その他	2,648	6.9	3,304	7.4	656	24.8
合計	38,424	100.0	44,745	100.0	6,321	91.2

営業利益 (単位:百万円)	2013年3月期		2014年3月期		前期比	
	金額	利益率(%)	金額	利益率(%)	増減額	増減率(%)
装置関連	137	0.72	504	2.3	368	265.8
電子デバイス	257	5.6	733	11.0	476	184.5
太陽電池	△3,934	-	△386	-	3,548	-
その他	△8	-	8	0.24	16	-
全社消去	△61	-	△61	-	0	-
合計	△3,608	-	798	1.8	4,406	-

連結貸借対照表 ～資産～



(百万円)	2013/3期 期末	2014/3期 期末	増減額
流動資産	34,271	39,835	5,564
現金・預金	7,373	7,550	177
受取手形及び売掛金	15,235	16,946	1,711
たな卸資産	9,536	12,406	2,870
固定資産	32,072	34,887	2,815
有形固定資産	24,914	29,041	4,127
建物及び構築物	5,409	6,466	1,057
機械装置・運搬具	10,165	11,809	1,644
工具、器具、備品	5,980	6,593	613
土地	704	708	4
無形固定資産	1,683	1,613	△70
のれん	769	602	△167
投資その他資産	5,473	4,232	△1241
資産合計	66,343	74,723	8,380

貸借対照表は2013/3期と比較し、為替レートが大きく(US\$86.58→105.39期末レート)円安のため、換算後の海外子会社資産・負債が大きく増加した、仮に前期末レートで換算の場合は資産・負債共に減少している。

【流動資産増加の主な要因】
 上述のとおり、増加は円安の影響が大きく、前期末レートで換算した場合は、増減なし。
 主なたな卸資産
 真空シール:781百万円、石英:822百万円、
 サーモ:704百万円、セラミックス:886百万円、
 太陽電池用製造装置:3,403百万円
 太陽電池用シリコン製品:2,010百万円

【有形固定資産増加の主な要因】
 流動資産同様、増加は円安の影響が大きく、前期末レートで換算した場合は、1,200百万円程度減少(減価償却3,941百万円)

【無形固定資産の状況】
 のれん償却額:実績:380百万円

連結貸借対照表 ～負債及び純資産～



(百万円)	2013/3期 期末	2014/3期 期末	増減額
流動負債	27,243	28,522	1,279
支払手形及び買掛金	8,554	10,474	1,920
短期借入金	9,667	9,386	△281
1年内返済予定の 長期借入金	2,867	3,037	170
固定負債	8,660	8,140	△520
転換社債	-	-	-
長期借入金	5,836	5,673	△163
負債合計	35,904	36,662	758
純資産	30,439	38,060	7,621
株主資本	29,366	30,604	1,238
その他の包括利益累計額	399	6,884	6,485
少数株主持分	673	571	△102
負債・純資産合計	66,343	74,723	8,380

【流動負債増加の主な要因】
前ページに記載のとおり、増加は円安の影響が大きく、前期末レートで換算した場合は、2,600百万円程度減少

【有利子負債の状況】 ()内は13/3期末時点の数値

短期借入+1年内長期借入	12,423百万円	(12,534)
長期借入+社債等	5,673百万円	(5,836)
合計	18,096百万円	(18,370)
【ネット有利子負債	10,546百万円	(10,997)】

【純資産項目】

株主資本:

当期純利益	: 1,391百万円
配当金	: △154百万円
為替換算調整勘定	: 6,667百万円

キャッシュフロー計算書



(百万円)	2013/3期	2014/3期
営業活動によるキャッシュフロー	1,584	3,927
税引前当期純利益	△6,158	2,067
減価償却費	3,321	3,941
為替差損益(△:益)	△336	△1,022
事業構造改革引当金の増減(△:減少)	1,579	△1,579
売上債権の増減(△:増加)	393	3,463
たな卸資産の増減(△:増加)	3,377	△1,059
仕入債務の増減(△:減少)	△1,385	△962
その他	793	△922
投資活動によるキャッシュフロー	△401	△2,813
有形固定資産取得による支出	△3,706	△3,825
有形固定資産の売却による収入	3,480	108
投資有価証券、有価証券の取得による支出	△1	△101
投資有価証券、有価証券の売却による収入	6	1,507
その他	△180	△502
財務活動によるキャッシュフロー	△3,991	△1,861
短期借入金の増減額	△2,848	△1,529
長期借入れによる収入	3,500	2,900
長期借入金の返済による支出	△3,926	△3,013
株式の発行による収入	-	-
配当金の支払額	△609	△155
その他	△108	△64
現金及び現金同等物の増加額	△2,187	177
現金及び現金同等物の期首残高	9,560	7,373
現金及び現金同等物の期末残高	7,373	7,550

【営業CFの状況】

税前利益+減価償却:
6,008百万円
事業構造改革引当金増加による営業CFのG減少:
△1,579百万円
売上債権減少による営業CFの増加:
3,463百万円
たな卸資産増加による営業CFの減少:
△1,059百万円
仕入債務減少による営業CF減少:
△962百万円

【投資CFの状況】

有形固定資産取得支出の主な内容

- ・上海子会社：1,196百万円
- ・杭州子会社：870百万円
- ・銀川子会社：1,176百万円

通期業績見通し



(百万円)	2014/3期	2015/3期(計)	前期比(%)
売上高	44,745	50,000	11.7
営業利益	798	1,800	125.6
経常利益	1,262	1,000	△20.8
当期純利益	1,391	700	△49.7
設備投資額	3,825	3,000	△21.6
減価償却費	3,941	4,200	6.7

注 為替レート2014/3期→2015/3期予想レート：米ドル 97.99円→102円 人民元 15.96円→16.5円(期中平均レート)

設備投資は、大規模設備投資未計画、前期末設備未払金を考慮したCFベースの数値です。

通期業績見通し



(百万円)	2015/3期 予想
売上高	50,000
営業利益	1,800
経常利益	1,000
当期純利益	700

半導体業界の設備投資が継続、設備稼働率も高止まり
太陽電池設置量は拡大するものと見込む

生産量増加に伴い歩留まり向上、コスト減で増益を見込む

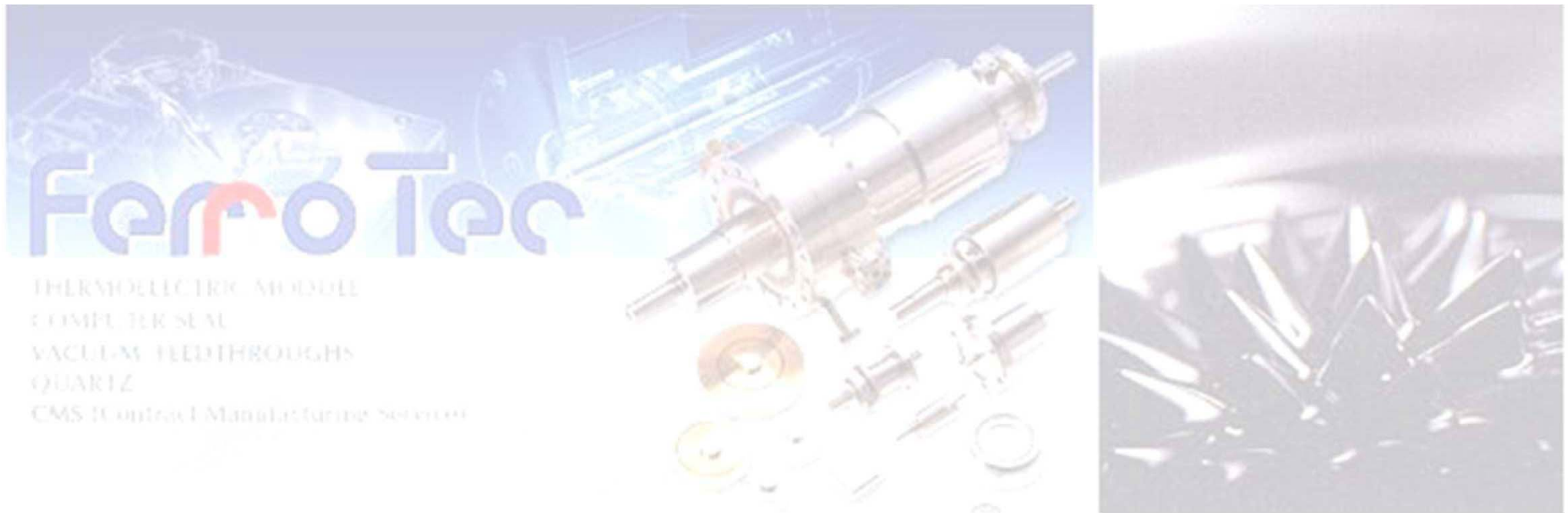
為替動向は小幅な値動きが続き多額の為替差益損は見込まず

税前利益に対して30%を法人税として見込む

通期業績見通し(セグメント別売上高)



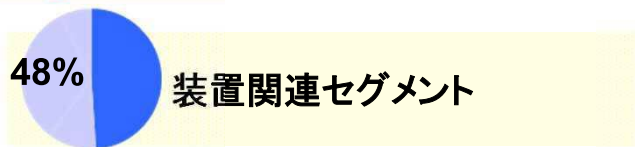
(百万円)	2014/3期	2015/3期(計)	前期比 (%)
装 置 関 連	21,628	22,300	3.1
真空シール	5,422	5,800	7.0
石英製品	4,484	4,700	4.8
セラミックス	3,965	4,100	3.4
EBガン・LED蒸着装置	3,242	3,100	△4.4
ウエーハ加工	4,515	4,600	1.9
電 子 デ バ イ ス	6,609	7,550	14.2
サーモモジュール	6,054	6,950	14.8
磁性流体・その他	555	600	8.1
太 陽 電 池	13,203	16,150	22.3
石英坩堝	3,699	4,500	22.7
太陽電池用シリコン	7,570	8,700	14.9
シリコン結晶製造装置	687	550	△19.9
セル・その他	1,247	2,400	92.5
そ の 他	3,304	4,000	21.1
合 計	44,745	50,000	11.7



2014年3月期業績報告

セグメント別の状況と今後の見通し

セグメント



真空シール



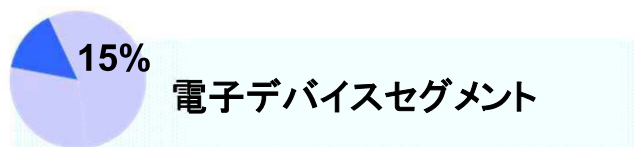
石英製品



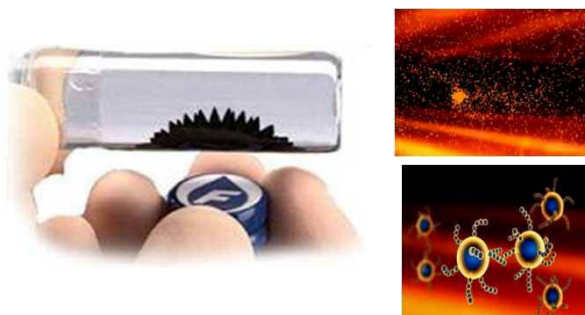
セラミックス製品



ウェーハ加工



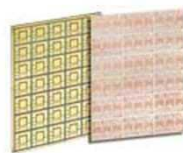
磁性流体



サーモジュール



パワー半導体用基板



太陽電池用シリコン(OEM)

単結晶



多結晶



PV用ウエーハ



消耗品群

石英坩堝



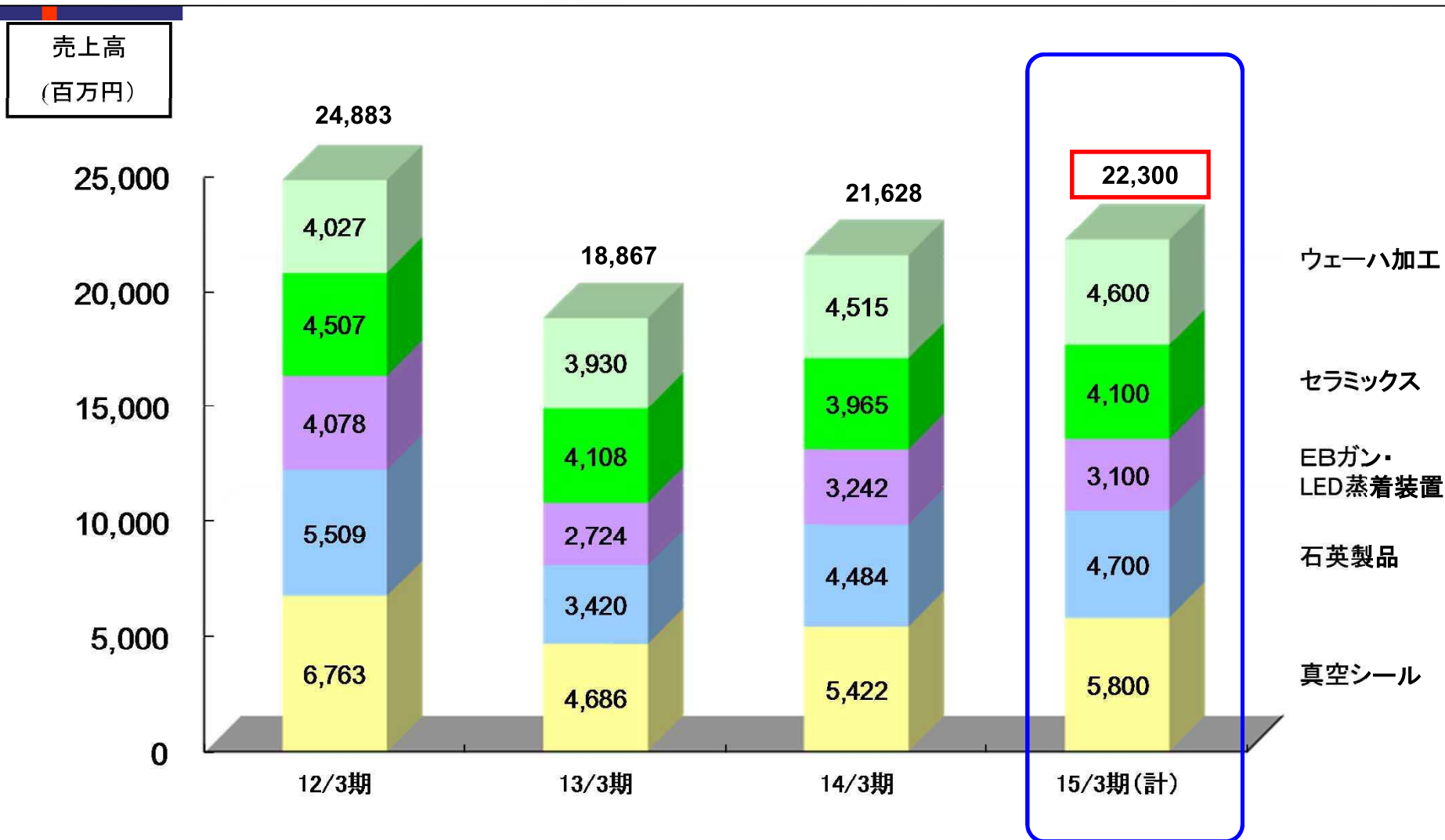
カーボン坩堝



角槽坩堝

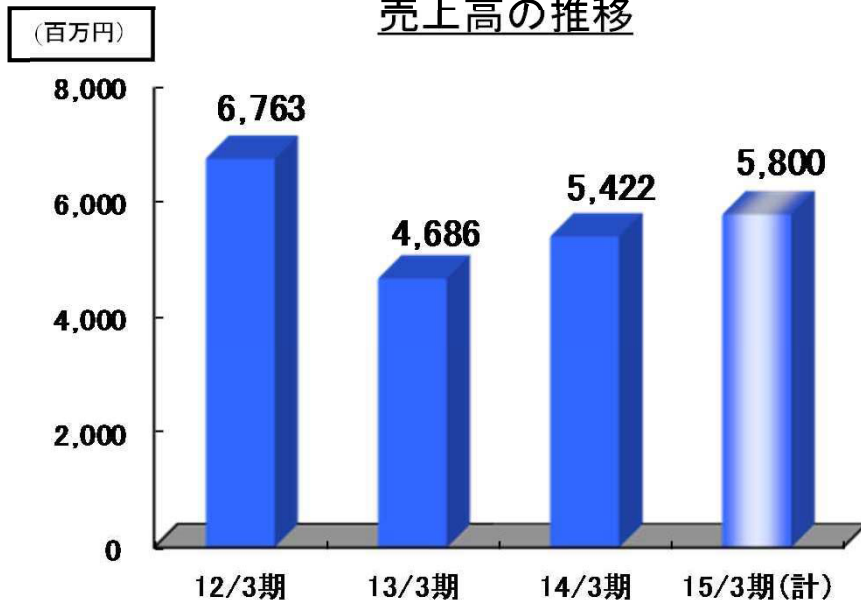


装置関連セグメント

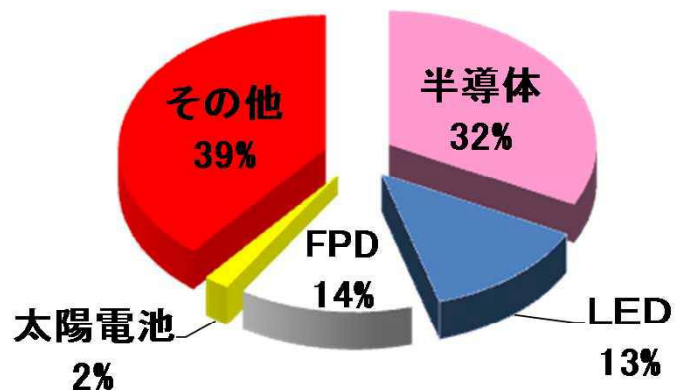


■ = 半導体用シリコン製品は、2012/3期より、ウェーハ加工へ移動しております。

売上高の推移



真空シール関連事業の販売先業種別シェア



注)その他:産業用真空装置、航空、医療、科学など

1. 14/3期の業績

- FPD市場は、高精細中小型液晶装置の設備投資が一巡
- 半導体市場は、大手企業で投資が再開され、装置需要が広がり受注増に転じる
- 中国進出装置メーカーからの受託生産が順調に拡大
- ロボットメーカー向けも受注増加に転じる

2. 15/3期の見通し

- FPD市場は中国メーカーの投資再開の計画もあり新興国向け低価格モバイルが鍵となる
- 自動車搭載用途でデバイスメーカーは好調の見通し
- 半導体は3D・微細化投資で好調も上期ピークで一服か
- SEAJ発表の装置需給予測は11%成長の見込み
- 受託生産は堅調に推移の見通し

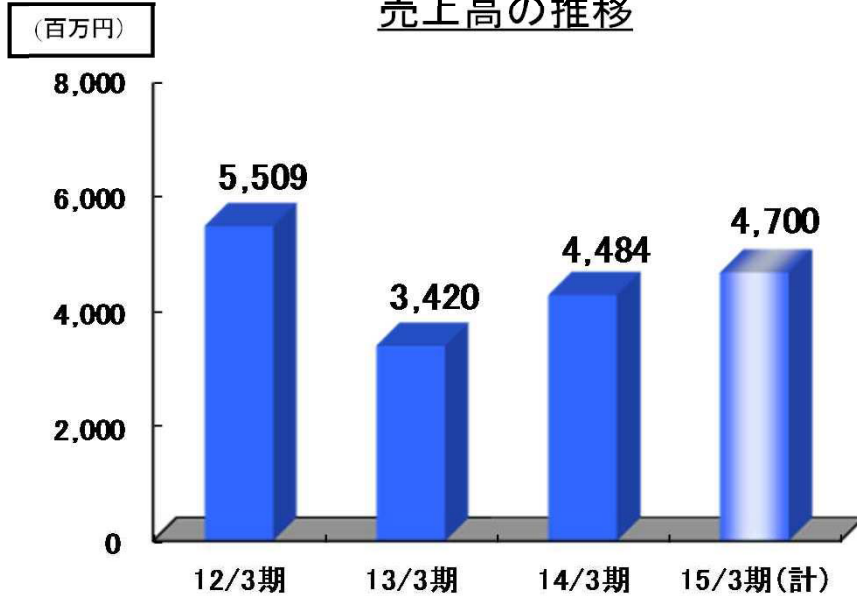
《施策》

- 一般産業の受託装置サブアッセンブリーの拡大
- エンジニアリング・アフターサービスの提供

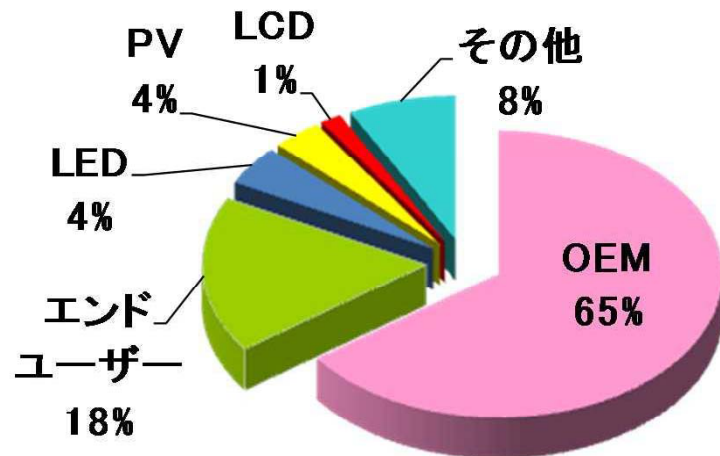
石英製品の状況と今後の見通し



売上高の推移



石英製品の販売先業種別シェア



1. 14/3期の業績

- 国内・アジアICメーカーの投資が始まり徐々に回復
- 米国・国内大手半導体OEMからの受注が回復
- 国内・アジア企業の投資再開で受注増、短納期要求増
- 超高純度製品の中国工場認定完了し生産スタート
- 引合い増加により、総じて堅調も値下げ圧力継続

2. 15/3期の見通し

- 米国・国内大手半導体OEMからの受注で繁忙続く
- 国内・アジア企業の投資で受注は高止まりの見込
- 超高純度製品の中国生産で量産増加
- 相変わらず短納期要請が続く見込み
- 付加価値品対応にて価格維持と材料コストダウンによる収益の改善

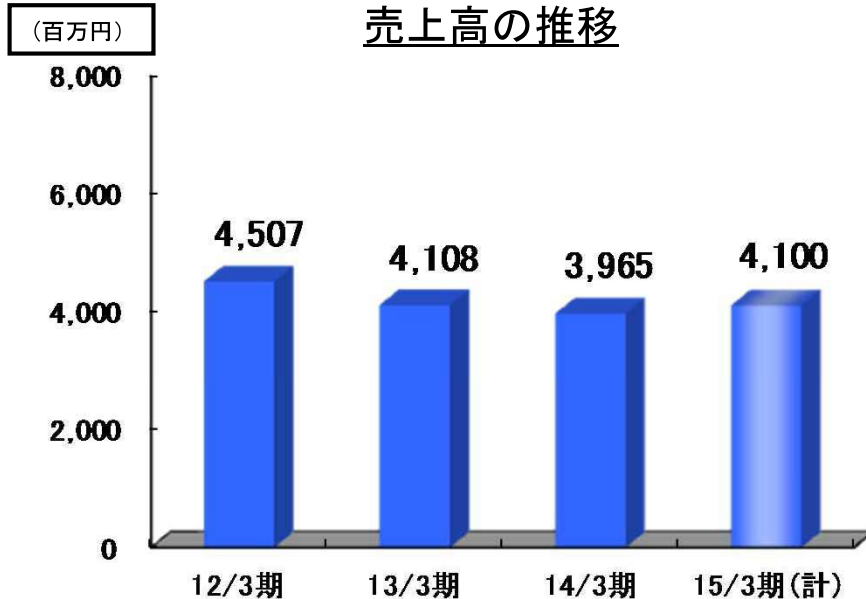
《施策》

- 中国生産をさらに拡大し、コスト低減を図る
- シリコンパーツの次世代・次機種製品への対応
- 台湾企業への営業・短納期・安定品質・カスタマイズ対応

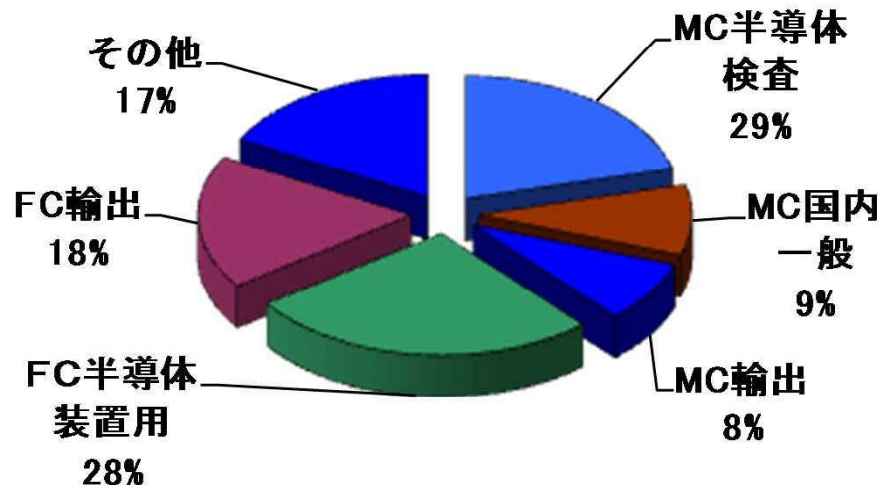
セラミックス製品の状況と今後の見通し



売上高の推移



セラミックス製品の製品別販売シェア



注)FC:ファイン・セラミックス MC:マシナブル・セラミックス(ホットベール)

1. 14/3期 (1-12月)の業績

マシナブルセラミックス“ホットベール”

- ・メモリー(N/Flash)は、下期以降緩やかな回復基調を辿り4Qは年度最高の販売高となった。一方ノンメモリー(Logic)は、高機能SmartPhone用デバイスの生産調整により韓国台湾の低迷が続く大きな販売減となった。
- ・有機EL用装置向け販売は販売先の量産化遅れにより大幅未達となったが、米国向け医療用関連部品は下期から量産販売が始まった。

ファインセラミックス

- ・年初より台湾中心に微細化投資が動き始め、下期に入り大手ICメーカー大手ファンドリーの先端投資(微細化・3D化)が想定以上の急回復をみせ国内外装置メーカーからの受注販売が急激に増加した。
- ・特に海外向は大きく販売増に。

2. 15/3期 (1-12月)の見通し

マシナブルセラミックス“ホットベール”

- ・メモリー(N/Flash)用途は、モバイルおよびクラウド向けSSD用により上期は旺盛な需要が続く、堅調なSSD用需要に引続き牽引される基調。
- ・ノンメモリー(Logic)用途は、新興国におけるモバイルデバイスの市場拡大により緩やかな回復基調は続く見込み。

ファインセラミックス

- ・微細化投資の継続で上期は繁忙。一部Fabの投資延期で年央頃に一旦落ち着くが、先端化(微細化・3D化)投資は2015年も大いに期待される。

3. 継続販売方針

〈マシナブル〉

- ・Wafer回路検査治具の新規顧客・用途のGlobal展開拡販(営業再強化)
- ・一般品の新規顧客・用途(医療機器等)のGlobal展開拡販

〈ファインセラミックス〉

- ・米国、アジアに加え、欧州市場の新規顧客・用途開拓営業継続中

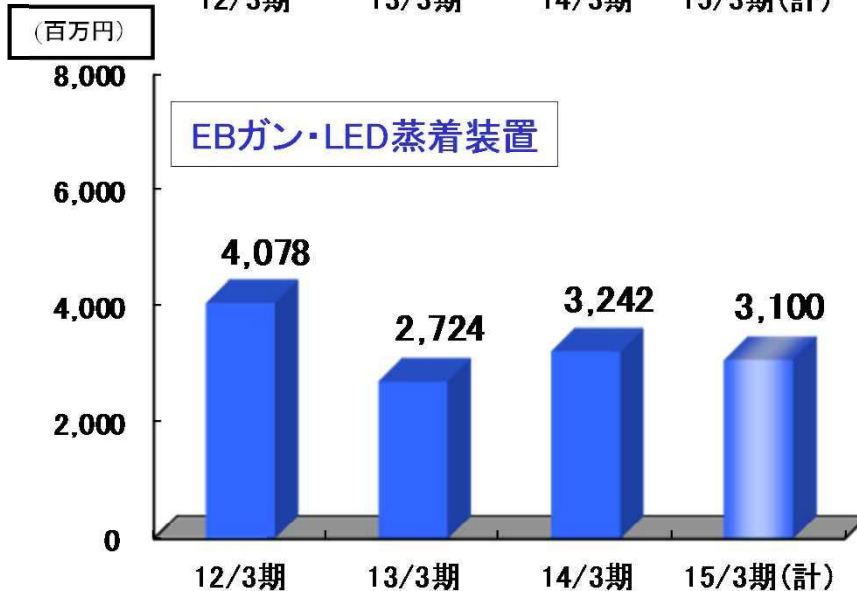
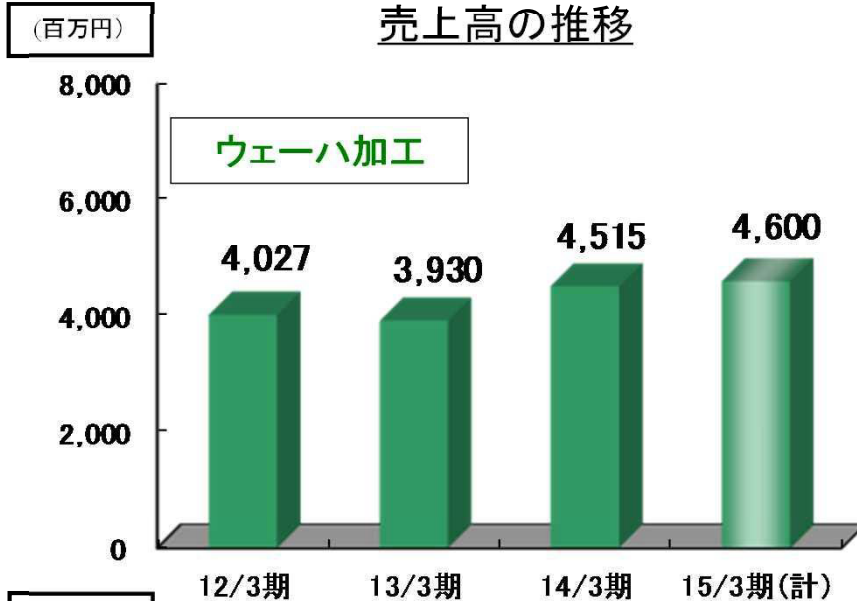
〈共通〉

- ・新材料、新加工技術開発による拡販と販売競争力の強化

ウェーハ加工と蒸着装置の状況と見通し



売上高の推移



半導体ウェーハ:

1. 14/3期の業績

- ・ 全般に市況が回復、特に自社ブランド品が拡大
- ・ 中国・台湾市場が需要強いが後半伸びきれずに終る
- ・ ウェーハの品種を増やしたが認定に時間を要した

2. 15/3期の見通し

- ・ 市況が順調のため自社ブランド品の上昇を見込む
 - ・ 中国・台湾市場は堅調に推移し、売上増を見込む
- 《施策》
- ・ 量産拡大に対応した設備増強を計画
 - ・ 技術・品質等サービス体制を整備

EBガン・蒸着装置:

1. 14/3期の業績

- ・ 緩やかだが需要回復から売上増加となる

2. 15/3期の見通し

- ・ 需要回復も一服感あり、LED市場は依然厳しい市場環境

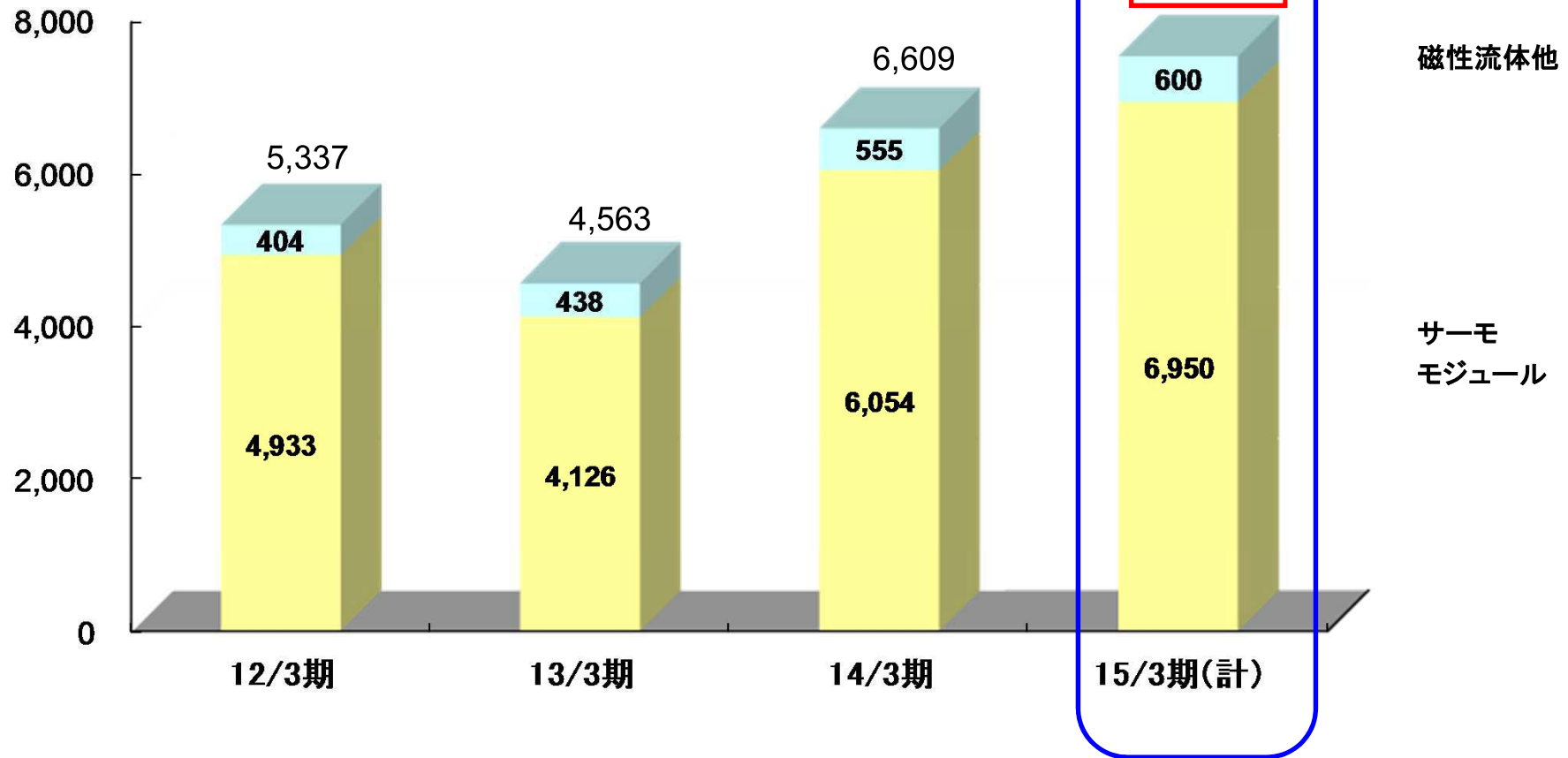
《施策》

- ・ 光学市場に的を絞り、営業活動を行う
- ・ 欧州市場にテコ入れ

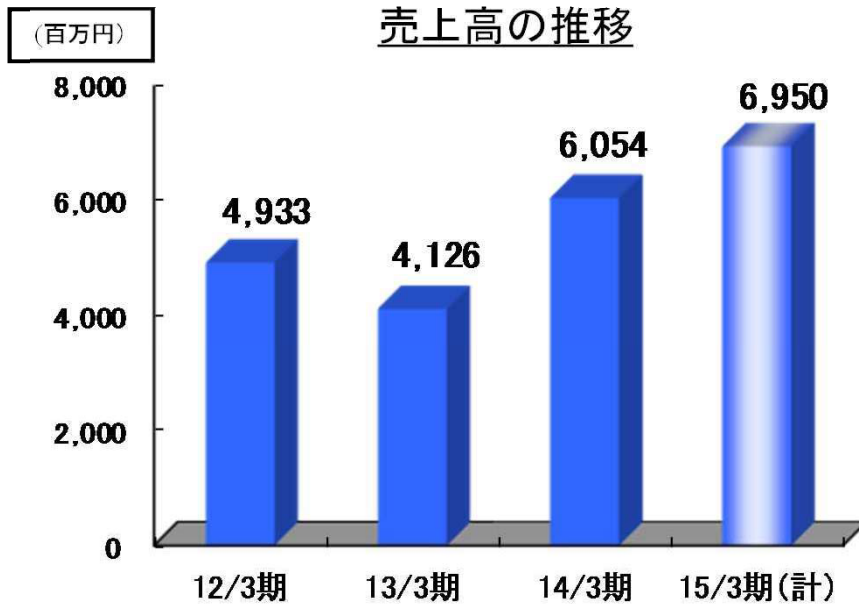
電子デバイスセグメント



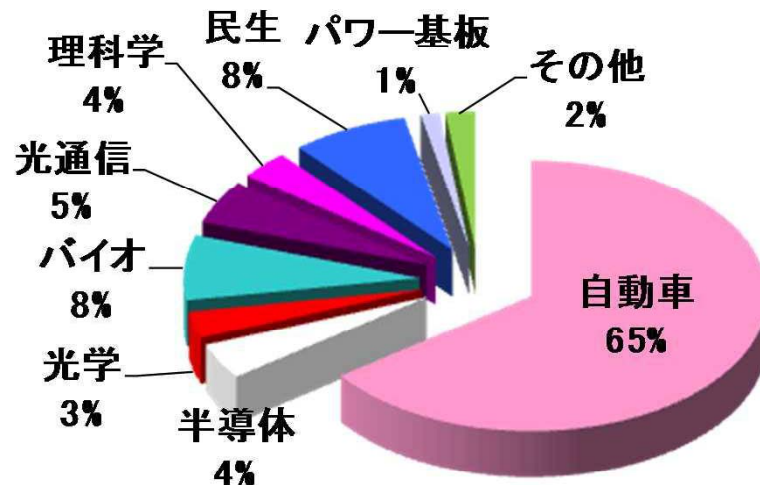
売上高
(百万円)



サーモモジュール製品の状況と今後の見通し



サーモモジュールの業種別販売先シェア



1. 14/3期の業績

自動車温調シート

- ・ 好調な米国市場に支えられ推移。

その他の産業

- ・ 光学用を除くすべての用途で、販売が拡大。
- ・ 光学用は、堅調。
- ・ 大手メーカーにパワーデバイス用基板の量産供給を開始。

2. 15/3期の見通し

自動車温調シート

- ・ 今期も好調維持を見込む

その他の産業

- ・ すべての用途で、堅調～好調の見通し
- ・ パワーデバイス用基板は、採用機種増で大幅増の見込み

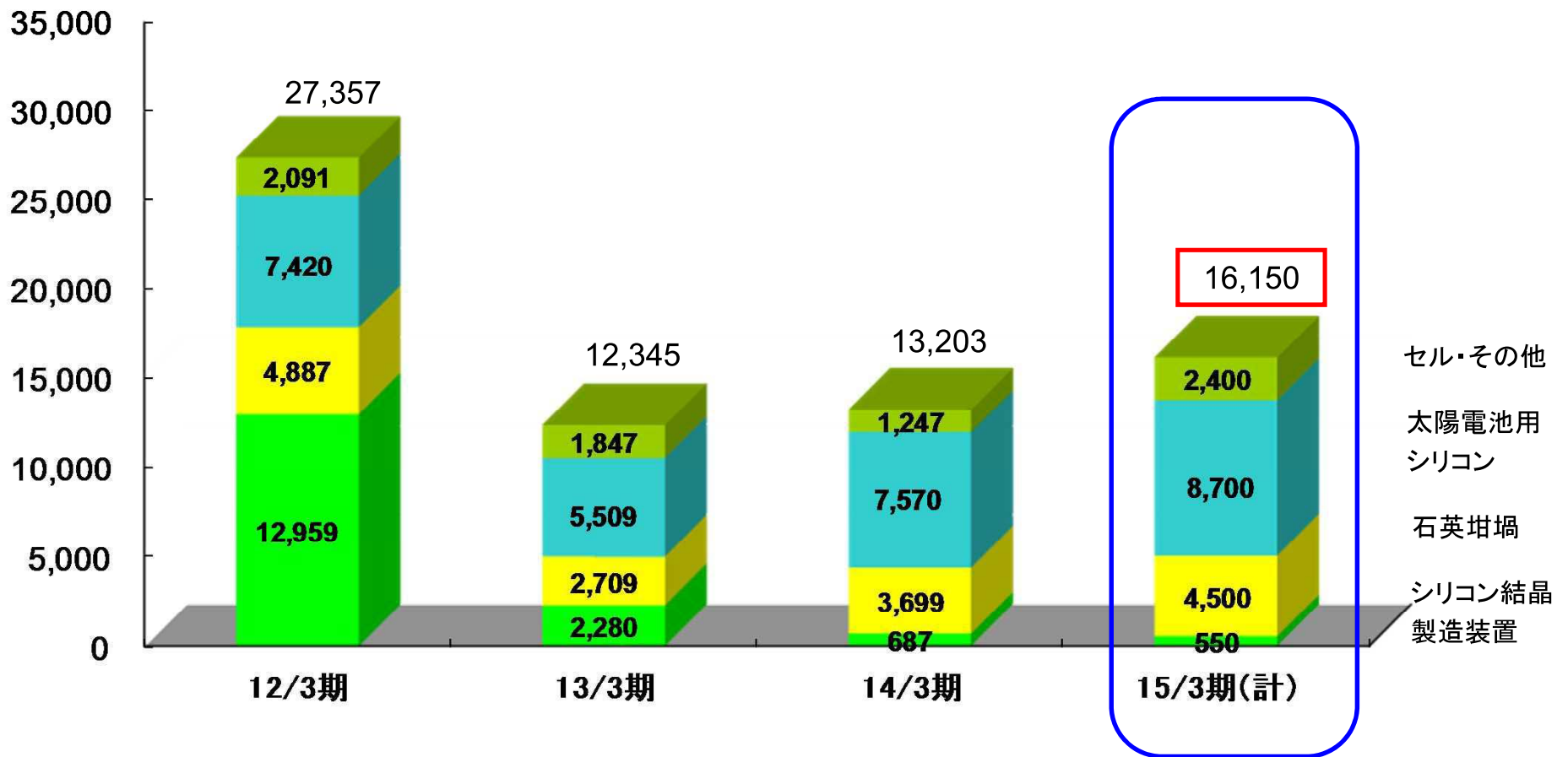
《施策》

- ・ 営業の質を高め、顧客満足度の向上を図る
- ・ パワーデバイス用基板の営業を強化する
- ・ 新規ユーザーのTE応用製品の立ち上げに注力する

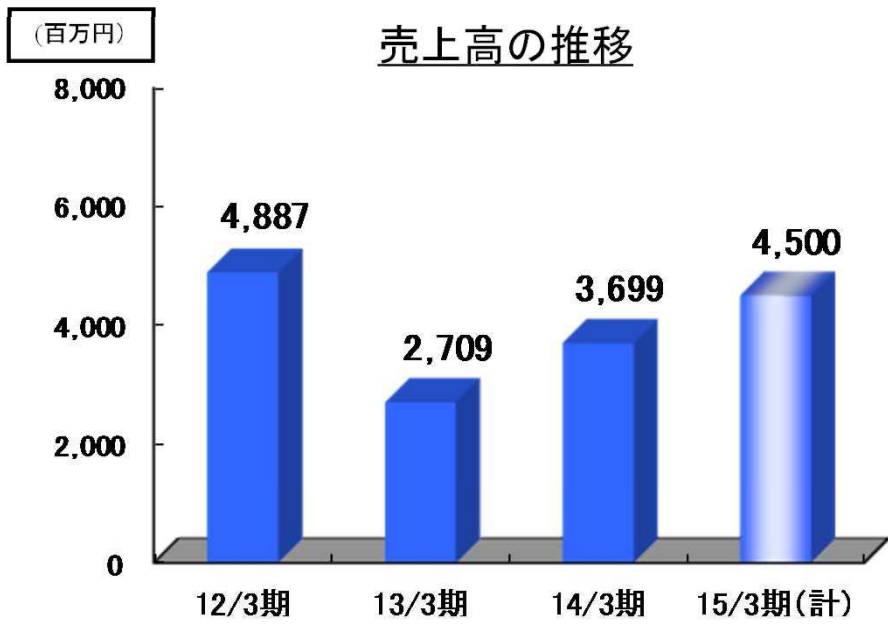
太陽電池セグメント



売上高
(百万円)



坩堝の状況と今後の見通し



単結晶用石英坩堝

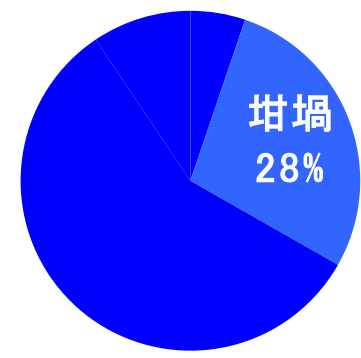


多結晶用角槽

太陽電池セグメントに占める

売上高構成比

2014/3期



1. 14/3期の業績

- PV用途需要は底打ちしたが回復は緩やか
- 価格は横ばい、数量はやや増加傾向となる
- 小口径半導体用途シェア拡大に挑戦
- 多結晶用の角槽は台湾顧客向けに回復

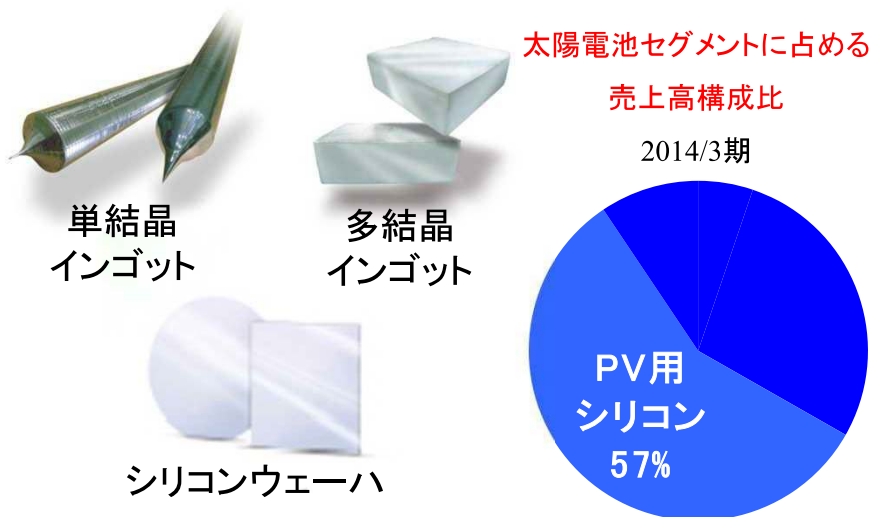
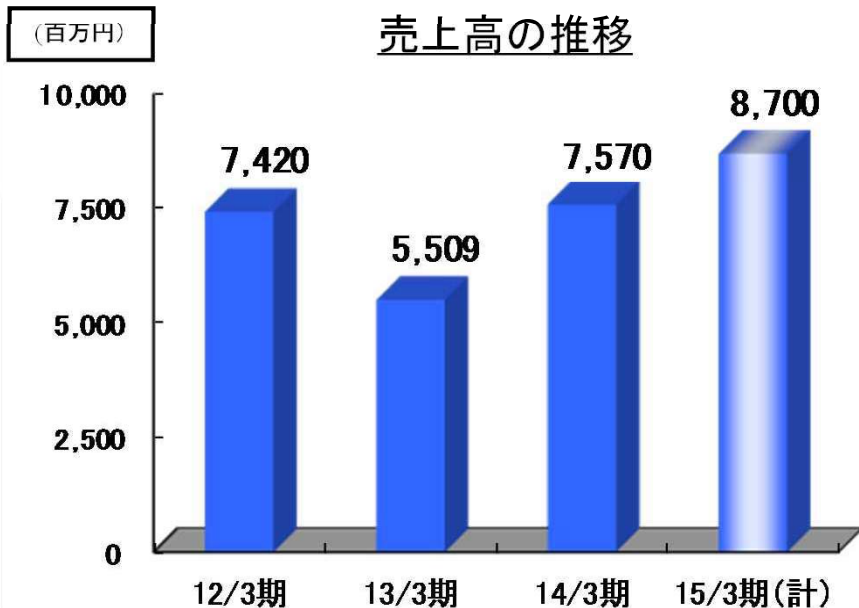
2. 15/3期の見通し

- 需要は増加傾向が続くも、価格の値戻りなし
- 追いチャージの1本引きへ顧客ニーズが変化
- 半導体用途向け販売増を引続き進める
- 多結晶用の角槽は数量増加の見込み

《施策》

- 長寿命品の投入にて価格転嫁を図る
- 銀川工場移管でコスト低減に努める
- 国内半導体メーカー向け認定取得の継続

太陽電池用シリコンの状況と今後の見通し



1. 14/3期の業績

- N型結晶OEMに特化し、需要は比較的堅調で引合も増加
- 需要家の要求は高性能かつ低価格製品
- 市場動向は日本・中国・米国は旺盛、インド始め、新興国も立ち上がる。
- 価格は横ばいで推移し、競争激化で軟調

2. 15/3期の見通し

- 新規OEM先の認定取得へ向けて評価を継続
- 顧客ニーズは、高変換効率のN型単結晶
- 多結晶ニーズも、特に中国内で引続き継続
- 価格は現状レベルで推移と予想

《施策》

- 銀川工場フル稼働、追加設備を投入
- 固定砥粒、薄型ウェーハの需要に対応。増設も検討
- N型単結晶の性能向上で顧客拡大を目指す